

第2回有識者懇談会での主な意見と対応

項目等	指摘事項	対応の方向・修文(案) <span style="color:red">赤字:追記・修正</span>
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料3に「地域コミュニティの高さ」とあるが、地域コミュニティに高い低いはない。妥当な言葉を選ぶべき。</li> </ul>	<p>「地域コミュニティの<b>強さ</b>」に修正する。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化的な豊かさについて、記載が不足している。</li> </ul>	<p>(自然、歴史、農林水産業、食文化、ものづくり等豊富な資源を活かした雪国ならではの生活の知恵が複合した独自で多様性のある文化)の5段落目に、以下の文章を記載。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな産業があり、農村があったり、職人が手仕事をやっている工場もあつたりすることは、子どもたちに多様な生き方に触れさせることができるということでもある。その点も強調されるとよいのではないか。</li> </ul>	<p>「食文化を支える伝統工芸に加え、加賀友禅や越前和紙、若狭めのう細工、越前打刃物、井波彫刻、高岡銅器等、多くの伝統工芸が引き継がれており、これらを背景として、東京や京都に次いで、人口に比して多くの美術家を輩出している。<b>これらの伝統工芸は、子ども達に多様な生き方に触れさせる機会を与えている。</b>」</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>方向性が見えてきた印象がある。全国レベルの水準の居住環境(教育・生活)があることをもっと強調してもよいのではないか。</li> </ul>	<p>(地域コミュニティの<b>強さ</b>や経済的ゆとりで子育てしやすく女性の社会参加がしやすい優れた生活環境)に、北陸が教育や生活環境で優れている点を記載。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>北陸圏の経済力と暮らしの場としての価値は、日本で突出している。両方をあわせ持っているという特長は、もっと強調して表現してもよいのではないか。</li> </ul>	<p>(地域コミュニティの<b>強さ</b>や経済的ゆとりで子育てしやすく女性の社会参加がしやすい優れた生活環境)に、1世帯あたりの世帯収入も高い水準にある点を記載。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>北陸圏の弱みについて、本文の文章の中でももう少し触れたほうがよいのではないかと課題と問題は、異なる。たとえば、北陸は幸福度が1番だと言っているが、住みたいまち1番にはなっていない。選択肢が少ないという指摘もあつたが、多様性が少ない、閉鎖的ということもあるのではないかと。そうした問題を整理しておく必要がある。</li> </ul>	<p>(4) 接続する都市群と半島や中山間地の共生 (地方中核都市の接続や地域コミュニティがもたらす魅力ある暮らしの充実)に、多様な高次の都市サービスを提供していくため、「連携中枢都市圏」や「定住自立圏」の形成を促進する必要性について記載。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー効率もそれほど高くはない。改善が必要。</li> </ul>	<p>(3) 厳しい自然環境の中でも安全・安心で快適な生活レベルの維持・向上 (エネルギー開発等の更なる推進)に、効率良いエネルギー活用の課題として、発電技術や新たなエネルギー開発への取組の必要性を記載。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>農家が自分の小さな畑で野菜を作りながら年をとっていくのは、幸せなことである。北陸では、高齢者の息子・娘が1時間圏内に住んでいるケースが多く、先ほど指摘された高齢者の散居への懸念は、あまり心配する必要がないと思われる。</li> </ul>	<p>(4) 接続する都市群と半島や中山間地の共生 (半島や中山間地等での過疎化の進行への対応)に、集落が散在する地域において、小さな拠点づくり等の必要性について記載。</p>
将来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の中での北陸の役割を示す計画としてもよいのではないかと。富山市では、コンパクトシティの取組がOECD報告書に掲載されたことで、各所から声がかかるようになった。最初は力不足でも、背伸びをすると視野は広がるものだ。</li> </ul>	<p>1 位置付けに、環日本海諸国を始めとする東アジアへのゲートウェイの役割について記載。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来像について、「どこよりも」という表現がされているが、何かと比較するのではなく、北陸の住民が自信とプライドを持って輝くということを示す表現がよいのではないかと。</li> </ul>	<p>「暮らしやすさに磨きをかけ更に輝く 新・北陸」に修正する。</p>
暮らし	<ul style="list-style-type: none"> <li>3世代同居率や共働き率の高さが記載されているが、世帯に子どもが複数いる三世帯同居が北陸では理想的だろう。世帯あたりの子どもの人数が一人の世帯と複数の世帯はどちらが多いのか、またそれらの世帯収入には差があるのか等、データを用いて、やはり北陸は子育てしやすい、住みやすいという裏付けができればよいのではないかと。</li> </ul>	<p>国勢調査等に基づき、世帯別子どもの数等については整理。なお、世帯構成と世帯収入のクロス集計は国勢調査等既存統計データでの整理は困難。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援については、もっと踏み込んでほしい。三世帯同居は働きやすさだけでなく、孫育ての観点からも重要であり、どのように最期を看取るかということとも関わる。</li> </ul>	<p>(1) 親との近居や地域コミュニティを維持するとともに、子育て支援や女性就業、生活サービス支援等だれもが暮らしやすい生活環境の充実 (若者から高齢者みんなが住みやすく、2代、3代と安心して住み続けられる、地域コミュニティの維持・充実、定住化環境整備)に、子育て世代の親が孫の面倒をみる機会が多いなど世代間交流が多い点について記載。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>たとえば砺波の散居村は全くコンパクトではないが、集住は地元の反発が強い。県民性や地域性を考えたまちづくりが必要だ。こうした地域の高齢化を支えるには公共交通が重要だが、富山市以外は決定的にインフラが弱い。老後が明るく見えないところでは、長く住もうとは思われない。</li> </ul>	<p>(3) 多様性と集約性のある都市サービス拠点のコンパクト化と交通ネットワーク充実による持続可能で多様な居住選択機会の提供及び人口誘致 (中山間地等における生活サービス機能の集約化と利便性の高いネットワークの形成)に、周辺集落と交通ネットワークで結ぶ等の小さな拠点づくりについて記載。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>「コンパクト+ネットワーク」を取り上げているが、全国計画に比べ具体性に欠ける。圏域の中でのモデルを示すなど具体化を。</li> </ul>	<p>(3) 多様性と集約性のある都市サービス拠点のコンパクト化と交通ネットワーク充実による持続可能で多様な居住選択機会の提供及び人口誘致の冒頭3段落目に、以下の文章を記載。</p> <p>「このため、「道の駅」による地域拠点機能の強化やスマートIC(インターチェンジ)等を活用し、都市機能の集約化・拠点化を図る。また、立地適正化計画制度を利用してコンパクトなまちづくりを進めるとともに交通ネットワークの充実を図り、都市圏の機能の維持のため都市と都市、都市と農山漁村の連携を強化する。中心市街地の衰退化に影響を与える空き家・空き地対策に取りかかるとともに、公共交通を活用した低炭素まちづくりを進め、魅力あるまちなかの活性化を目指す。さらに、まちの魅力と特色を活用し、住環境を充実させる。」</p>	

目標①個性ある北陸圏の創生	人口誘致、コンパクト+ネットワーク	<p>・国土形成計画の全体を網羅しているように見えるが、インパクトが弱くなっている項目がある。環境、インフラ基盤のメンテナンス、ICT技術の活用が弱いのでは。</p>	<p>(3)多様性と集約性のある都市サービス拠点のコンパクト化と交通ネットワーク充実による持続可能で多様な居住選択機会の提供及び人口誘致（セーフティーネットのある安心とゆとり、高度情報通信環境の充実等による利便性や高等教育機会に恵まれた魅力のある暮らしやすい農山漁村の形成）の2段落目に、以下の文章を記載。</p> <p>「地方における<b>ブロードバンド環境の整備、テレワークやクラウドソーシング等</b>、ICTの普及・高度情報通信基盤の整備・活用に合わせて、サイバー空間の安全を確保するための対策を強化することにより、農山漁村の魅力ある暮らしを積極的に情報発信する仕組みづくりを図るとともに、「道の駅」の整備・活用による特産物販売や地域情報の発信に取り組むことで、環境保全や食へのこだわり、健康志向、知的欲求の高まり等、都市住民の多様なニーズに対応できる満足度の高いサービスを提供し、都市住民等との交流により、農山漁村の活性化を図る。農山漁村における水と緑豊かな自然環境の保全や地域環境の形成、地域資源を活かした美しく個性あるまちづくり・地域おこし、伝統文化の伝承等に取り組むなど農山漁村と都市との交流や新たな地域協働の形成、人材育成の仕組みづくりを推進する。」</p> <p>(3)多様性と集約性のある都市サービス拠点のコンパクト化と交通ネットワーク充実による持続可能で多様な居住選択機会の提供及び人口誘致（的確な優先順位等によるインフラの長寿命化等対策等インフラマネジメントの構築）に、以下の文章を記載。</p> <p>「なお、老朽化する道路施設等について、安全性の徹底調査・点検、老朽化対策を重点的に実施するとともに、<b>予防保全を基軸とするメンテナンスサイクルを構築・実行し、中長期的なトータルコストの縮減や予算の平準化を図る。</b>」</p>
		<p>・ものづくりの都市として困っているのは、働く人材がいないということである。富山では業業が盛んだが、全くの素人が製薬工場のラインに立つことは困難である。こうした労働者をどう育てるか。専門学校必要性を、業界の方からも訴えられている。製造業を支えながら、都市と一緒に成長していくという視点が盛り込まれると、他の市町村の参考になるのではないか。</p>	<p>(3)多様性と集約性のある都市サービス拠点のコンパクト化と交通ネットワーク充実による持続可能で多様な居住選択機会の提供及び人口誘致（セーフティーネットのある安心とゆとり、高度情報通信環境の充実等による利便性や高等教育機会に恵まれた魅力のある暮らしやすい農山漁村の形成）に、時代や社会のニーズに対応した学部・学科の新設・見直し等について記載。</p>
		<p>・人材育成は非常に重要である。高等教育機関への要望も、ぜひ計画に書き込んでいただきたい。</p>	
		<p>・富山市の取組自体は、各自治体の目標になる良い事例だと思う。</p>	—
防災	<p>・前回地方計画では大雪が大きなテーマだったが、今回はあまり触れられていない。きちんと入れてほしい。北陸新幹線開業後、まだ雪の季節を迎えていない。北陸で冬に観光客が減るのは、車の運転に抵抗がある人が多いからではないかと思うが、この観光客減を克服することは重要な課題である。</p>	<p>(4)風水害や土砂災害等のほか、地震・津波も含めた更なる災害リスク低減に向けたソフト・ハード一体の防災・減災対策の強化や居住環境の充実（災害に強い国土形成）- 大雪対策の2段落目に、以下の文章を記載。</p> <p>「このため、冬季における生活や<b>観光</b>、産業活動を支える道路交通の信頼性の確保に向けて、」</p>	
	<p>・復興計画の合わせ技を盛り込んでおくべきではないか。たとえば、普段はキャンプ場だが、発災時には災害復旧拠点になる等。今回の計画では、他地域の災害時の応援に行くことは記載されているが、北陸圏の被災時にどのような支援を求めたいのかが考えられていない。</p>	<p>(4)風水害や土砂災害等のほか、地震・津波も含めた更なる災害リスク低減に向けたソフト・ハード一体の防災・減災対策の強化や居住環境の充実（災害に強い国土形成）に、災害対策活動の拠点整備について記載。</p>	
自然環境	<p>・国土形成計画の全体を網羅しているように見えるが、インパクトが弱くなっている項目がある。環境、インフラ基盤のメンテナンス、ICT技術の活用が弱いのでは。</p>	<p>(5)豊かな自然環境の保全と地球環境問題への対応（自然環境・水循環の<b>維持又は回復</b>）の最後の段落に、以下の文章を記載。</p> <p>「また、<b>生物多様性の重要性を多くの人々の共通認識とし、行動へと結びつけていくことが必要であり、そのためには教育及び学習を通じて、生物多様性に関する理解や知識を深め、それを行動へと結びつけていく能力を養う。</b>このため、国立公園などの自然公園において、自然観察会の実施、ビジターセンターにおける普及啓発活動等を通じて、<b>多くの人が自然とふれあい、我が国の自然の豊かさを実感できる機会を提供する。</b>」</p> <p>(資源循環と不法投棄対策)の1段落目に以下の文章を記載。</p> <p>「地域社会や企業等におけるこれまでの地道な取組により様々な資源のリサイクルは堅調な伸びを示しているが、更なる循環型社会構築に向けて、廃棄物の発生抑制や循環資源の再使用・再生利用等の3R、<b>リサイクルポート施策等を推進するとともに、都市と農山漁村が、相互補完によって相乗効果を生み出しながら、それぞれの経済社会活動を行う「地域循環共生圏」の構築を図る。</b>」</p>	
	<p>・ものづくり産業の人材育成を考えたとき、最先端技術の教育・研究も必要だと思うが、いまある技術を継承し、伸ばしていくことも重要であり、そういう人材育成も考えてほしい。</p>	<p>(1)集積する同業種・異業種や高等教育機関の接続都市間での対流と交通・ICTネットワーク環境の充実（起業意欲にあふれる人材の育成・定着と誘致、ものづくりを継承する年齢・性別を問わない将来を視野に入れた様々な人材育成の確保）に、ものづくりの継承による人材育成を記載。</p>	
	<p>・工業統計をみると、従業員一人当たり付加価値額は、それほど高くない。高付加価値化を目指す上で、現実を押さえて世界のニッチトップ企業を抱える北陸の強みを伸ばし、付加価値力を高めることが重要である。そのためには、中小企業のネットワーク化に触れてもよいのではないか。中小企業単独でさまざまなソリューションを検討するのは難しい。複数企業が連携した動きは活発化しているが、それをさらに促進することが重要。</p>	<p>(1)集積する同業種・異業種や高等教育機関の接続都市間での対流と交通・ICTネットワーク環境の充実（イノベーションの促進による活発な新産業の創出、産・学・研による加工製造の新技术の開発による高付加価値化）の4段落目に、以下の文章を記載。</p> <p>「北陸圏は、炭素繊維複合材の中間材の生産拠点が存在しているほか、約4割の出荷額を誇るアルミサッシ等、素材生産や加工技術等の集積があることから、「<b>高機能新素材生産</b>」を高度化し、用途開拓することにより、更なる高機能新素材産業の振興を図る。<b>また、中小企業地域資源活用プログラム等を活用し、中小企業のネットワーク化を進めていく。</b>」</p>	



目標② 競争力ある産業の育成	産業集積	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本社機能を東京から小松に移転したが、現実には単身赴任が多い。一般的に北陸は住みやすい地域であり、実際住んでみるとそのとおりだが、周りの人間はそうは思っていないのかもしれない。選択肢の少なさが一つの阻害要因ではないか。たとえば、大学が東京に比べれば少ない。北陸三県の中で、個性のある選択肢づくりをしてほしい。</li> <li>・ 福井県でも、行政がさまざまな取組をしており、子育てと女性活用についてはいちはん進んでいる。しかし、若い人が流出してしまうのは、大学の選択肢が少ないことと、身近な賃金格差が原因だろう。</li> <li>・ 高等教育機関への期待も、もっと書いてよい。大学卒業後に留ませるために大学側がもっと努力せよということでもよい。金沢の魅力を感じて、県外から金沢に進学した若者が残るケースも多い。こうしたこともうまく書き込めるとよい。</li> <li>・ 富山県内の大学で勉強した若者が、県外に就職してしまう。せっかく教えても、富山県内で生かしてもらえていない。就職支援に問題がある部分もあるが、生涯賃金が大きく違うなど、北陸の中で自分の未来を明るくイメージできないのではないかと思う。能力のある若者にとっての魅力は、働きがいもあるが、やはり賃金、安定収入の保障である。</li> </ul>	(1)集積する同業種・異業種や高等教育機関の接続都市間での対流と交通・ICTネットワーク環境の充実(起業意欲にあふれる人材の育成・定着と誘致、ものづくりを継承する年齢・性別を問わない将来を視野に入れた様々な人材育成の確保)に、人材育成機能の強化に向けて地元大学を始め産学官金が連携して取り組む点を記載。
	産業誘致	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業誘致については、研究所の誘致がよく言われるが、研修施設の誘致も重要。交流人口が増える。コマツやYKK等の事例もあるので、もう少し深掘りしてもよいのではないか。</li> <li>・ 小松に研修施設を持っている。たまたま土地があつて小松空港が近かったというのが立地の理由。年間三万人程度来ているが、それだけの人数を集めるためには、充実した二次交通が必要である。</li> </ul>	(2)太平洋側及び海外企業等の製造拠点・本社・研究開発・研修機能の誘致推進に向けた支援施策や環日本海諸国等海外や国内他地域との経済連携・立地ニーズにこたえるPR強化(環日本海諸国等海外や国内他地域からの企業の製造拠点・本社・研究開発・研修機能等の誘致や人材育成、誘致による地域産業の活性化)の1段落目に、以下の文章を記載。  「高規格幹線道路や地域高規格道路等の幹線道路網の整備、国際物流の拠点となる港湾・空港の整備、さらには北陸新幹線開業にともなう三大都市圏との近接性等を踏まえ北陸圏の物流や二次交通を含めた人流環境の向上に向けた取組を推進することで、三大都市圏や海外からの企業の製造拠点・本社・研究開発機能や研修機能等の誘致を進め安定した魅力ある雇用環境を創出するとともに、産学官が連携し人材育成機能強化を推進する。」
	地域ブランド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農林業のリソースはあるので、いかに生産性を上げるかが重要。もう少し先を見越した目標を記載したり、将来性のある農業支援が必要ではないか。</li> <li>・ 新しい将来像に向けた戦略について、グローバル化への対応として、ものづくり、観光、販路の拡大は重要である。既存の項目で触れるか、新たに項目を立てるかすべきではないか。</li> </ul>	(3)圏域の食料供給力と地域ブランド力の更なる強化(食料の安定供給と農山漁村の活性化)に、農業の生産・流通現場の技術革新の実現等の推進について記載。  (3)圏域の食料供給力と地域ブランド力の更なる強化に、(食のブランド化と海外展開の推進)や(食をテーマとした交流・観光の強化)を項目立てして記載。
	物流・旅客	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本社機能の移転の促進や太平洋側との連携強化を掲げているが、販路の問題がある。名古屋・大阪と結ぶインフラの整備推進や環日本海諸国とのアクセス・連携もあわせて記載するべきではないか。</li> <li>・ 福井県は交通と物流が遅れている。福井側からの情報発信不足もある。</li> </ul>	目標③の冒頭部分に、三大都市圏や環日本海諸国への物流機能強化について記載。  (1)市場となる大都市圏との取引や物流等を支える、更なる時間距離の短縮や生産拠点等誘致に向けた信頼性の高い国際物流・旅客機能の強化(道路・鉄道・港湾・空港と産業活動が連携した物流機能の強化)に、交通や物流の強化について記載。
目標③ 日本海側の中枢拠点の形成	防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業の強靱化に向けて、エネルギーの供給網、資源・リサイクルのロジスティックスを考えるべきだ。</li> </ul>	(2)太平洋側の防災面に加え産業等機能においても代替性を発揮する防災・産業拠点及びネットワークの強化(エネルギー受入・供給拠点やネットワーク機能の強化)に、エネルギー供給網について記載。  目標①(5)豊かな自然環境の保全と地球環境問題への対応(資源循環と不法投棄対策)の1段落目に、以下の文章を記載。  「地域社会や企業等におけるこれまでの地道な取組により様々な資源のリサイクルは堅調な伸びを示しているが、更なる循環型社会構築に向けて、廃棄物の発生抑制や循環資源の再使用・再生利用等の3R、リサイクルポート施策等を推進する」
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ローカルに輝く」は十分伝わるが、「グローバルに羽ばたく」に関しては、例えば九州等国内の拠点と連携しながら外国との結びつきを示すなど、表現の工夫があるとよいのではないか。</li> <li>・ 三次交通について、ほとんど触れられていない。三次交通で行くようなところに、北陸の良い所がある。三次交通まできちんと整備するところを強調してほしい。</li> </ul>	(2)北陸新幹線の開業、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とし、さらにはリニア中央新幹線の開業を見据えた首都圏や欧米豪、アジアの新興国等国内外観光客誘致強化と魅力の発信(北陸新幹線やリニア中央新幹線の開業、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした国内外に向けた周遊型観光プロモーション)に、三大都市圏の空港を介した外国との結びつきについて記載。  (1)多様な産業、歴史・景観・食文化等に彩られた地域資源の磨き上げと北陸圏内観光周遊ルートの充実(自然・歴史・文化を活かした地域個性の構築と魅力ある観光地の形成)の7段落目に、以下の文章を記載。  「加えて、交通ICカードの導入の支援や鉄道・バス・タクシー等を活用した二次交通、三次交通の整備等、外国人旅行者が観光地を周遊しやすい環境を整備する。」

目標④  
対流・交流  
人口の創出

地域資源	<p>・アジア人観光客をターゲットに雪を観光資源として活用するなど利雪を考えてはどうか。雪は永遠のテーマではあるが、プラス思考で考えることも大事。</p>	<p>(1)多様な産業、歴史・景観・食文化等に彩られた地域資源の磨き上げと北陸圏内観光周遊ルートの充実（伝統的な産業、自然・歴史に培われた暮らしの継承・発信）に、冬を楽しむ文化活動の振興に努める点を記載。</p>
	<p>・世界レベルの観光地になるために、何が足りないのか。マーケティングの視点を取り入れた施策が必要。インバウンドといっても、国籍は100カ国以上。どういったマーケットをどのように攻めるか、セグメント別の戦略を立てるという方向性を出してもよいのではないか。</p>	<p>(1)多様な産業、歴史・景観・食文化等に彩られた地域資源の磨き上げと北陸圏内観光周遊ルートの充実（受入環境の充実）に、以下の文章を記載。  「多様な観光商品開発や観光分野における人材育成のため、<b>アジアの団体客、欧米の個人客、宗教上の対応等を考慮した</b>マーケティング能力を持ち、顧客ニーズに合った観光プラン構築が可能な観光の専門家の人材発掘及び活用を図るための取組や観光関係者のおもてなしの心を醸成する研修等の取組、訪日外国人を始めとする国内外観光客への観光案内・観光ボランティアガイドや通訳案内士、特例ガイドの育成と民間事業者との連携によるそれらガイド等の積極活用・ネットワークの仕組み構築、さらには訪日外国人旅行者に対して宿泊施設や食事、交通機関等の手配を行うツアーオペレーター（ランドオペレーター）の認証制度の活用等の取組を推進する。」</p>
	<p>・台湾からの観光客は、桜・紅葉・立山の雪の壁に関心が高い。雪は、観光資源に活用できるのでは。</p>	<p>(1)多様な産業、歴史・景観・食文化等に彩られた地域資源の磨き上げと北陸圏内観光周遊ルートの充実（伝統的な産業、自然・歴史に培われた暮らしの継承・発信）に、冬を楽しむ文化活動の振興に努める点を記載。</p>
	<p>・観光業が大きな産業として将来性が見込まれる中、人材育成が重要である。観光学を教える教育機関があってもよい。理論的なバックグラウンドを持った人材、マネジメントができる人材を育てるということも重要である。</p>	<p>(1)多様な産業、歴史・景観・食文化等に彩られた地域資源の磨き上げと北陸圏内観光周遊ルートの充実（受入環境の充実）に、観光分野における人材育成について記載。</p>
	<p>・旅行者の視点で、何が足りないのか、追及することが必要。</p>	<p>(1)多様な産業、歴史・景観・食文化等に彩られた地域資源の磨き上げと北陸圏内観光周遊ルートの充実（受入環境の充実）に、顧客ニーズに合った観光プラン構築等に関する人材育成について記載。</p>
	<p>・日本はものづくりの国である一方、「おもてなし」の国でもある。</p>	<p>(1)多様な産業、歴史・景観・食文化等に彩られた地域資源の磨き上げと北陸圏内観光周遊ルートの充実（受入環境の充実）に、観光関係者のおもてなしの心を醸成する研修等の取組について記載。</p>
	<p>・観光は、均衡ある日本の発展に寄与できる産業である。しかし、一般的な温泉・食事の観光ではなく、北陸の特性を活かした観光モデル（スタイル）を作らないと、地方の再生に資する産業にならない。日本の原風景、日本の本来の良さが残っているのが今の北陸の売りであり、これを活かしたユニークな観光地づくりが必要。</p>	<p>(1)多様な産業、歴史・景観・食文化等に彩られた地域資源の磨き上げと北陸圏内観光周遊ルートの充実（自然・歴史・文化を活かした地域個性の構築と魅力ある観光地の形成）に、地域個性を活かした魅力ある観光地づくりについて記載。</p>
観光	<p>・北陸新幹線の開業効果は、JRの予測の4倍近くになっている。首都圏からの人口大移動がはじまる。これまで、京都が観光のゴールデンルートといわれてきたが、北陸と長野で「プラチナルート」の形成を考えている。能登への入込については、東海北陸自動車道（能越道）の効果も非常に大きい。</p>	<p>(2)北陸新幹線の開業、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とし、さらにはリニア中央新幹線の開業を見据えた首都圏や欧米豪、アジアの新興国等国内外観光客誘致強化と魅力の発信（交流に必要な交通基盤、社会基盤整備）に、首都圏空港と関西空港からの北陸新幹線の利用、さらには中部国際空港、高山本線等を組み合わせた北陸圏を核とした様々なニーズに対応した個人旅行者の誘客の多様で魅力ある広域的な観光周遊ルートの創出について記載。</p>
	<p>・観光リソースをこれまでとは異なる視点でどう開発していくか。エコツーリズムなどの記載はあるが、もう少し深掘りが必要。  ・観光については、温泉・食事以外の新しいタイプのツーリズム開発を書き込んでほしい。</p>	<p>(1)多様な産業、歴史・景観・食文化等に彩られた地域資源の磨き上げと北陸圏内観光周遊ルートの充実（自然・歴史・文化を活かした地域個性の構築と魅力ある観光地の形成）に、エコツーリズム等について深掘りした記述を記載。</p>
全体	<p>・北陸新幹線の大阪延伸についても、地域として声をはっきり上げるべきだと思う。</p>	<p>整備新幹線の整備は、本計画においては現時点における政府・与党申合せを記述。</p>
	<p>・東海北陸自動車道4車線化、北陸新幹線の大阪延伸、能越自動車道（七尾～田鶴浜）開通は真っ先に記載してほしい。</p>	
	<p>・何か行動を起こして変わるような提言を出してほしい。  ・夢ばかりではなく、具体的に何をするのか、というところを記載してほしい。トピックの重複は、整理してほしい。</p>	<p>広域連携プロジェクトにて具体化。</p>
1 接続型都市圏プロジェクト	<p>・課題の整理の際に、過去10年間の傾向を踏まえて、今後の10年間を検討する等、数値等の客観的な根拠を示してほしい。たとえば、エネルギー分野では、3.11後の再エネ導入率やエネルギー自給率、物流分野では、これまでの物流の増加傾向や今後の見通しを示す等。読み物としては良いが、国の計画としてはまだ薄い。</p>	<p>プロジェクト評価指標(KPI)について要検討。</p>
	<p>・北陸は自然に恵まれていて、暮らしやすい地域。また、福井・石川・富山と40万程度の中核都市が連なる横長の地域。だが、連携する都市計画の話が出てこない。物理的な距離を縮めるために新幹線や高速道路はあるが、接続型都市圏として成り立つ都市計画的な取組がほしい。</p>	<p>(2)近接する都市圏相互の魅力を享受することのできる接続型都市圏の形成（都市間の連携機能の強化）の骨子に、以下の文章を記載。  「○連携中枢都市圏の形成に向けた取組では、<b>金沢市を中心とした4市2町による連携中枢都市圏の形成が進められている</b>」</p>
	<p>・東アジアでは、これからメガシティが増え、ますます都市問題に悩むようになる。そうした都市に対し、北陸の都市と企業とがお手伝いをする。それは、自分たちを磨くことにもなり、インバウンドになって返ってくる。基礎自治体としてできることがある。</p>	<p>(1)住環境や子育て環境にも恵まれた個性ある都市圏の暮らしの質の向上（個性豊かでコンパクトな都市圏の形成）の骨子に、以下の文章を記載。  「○「<b>富山市環境未来都市計画</b>」では、「<b>環境未来都市</b>」構想推進国際フォーラムへの参加、<b>環境未来都市事業の国際展開、都市間連携・ネットワークの活用等の取組が進められている</b>。 ○これまでに有した貴重な都市間の連携やネットワークを最大限活用し、自らの取組における成功事例について情報発信を行い、国内外の都市・地域での普及展開に努める。 ○国内外の都市・地域での成功事例は、自らの取組にインテグレートさせ、新たな成功事例を創出させる。 ○この情報発信は、講演や意見交換会の開催・出席のほか、国際的イベントにも積極的に参加し、取組のPRを行うとともに、新たなネットワークも確立し、普及促進を展開させる。」</p>
	<p>・工業製品やインフラ単体で見ると、中国等も同じレベルに来ていて価格も安い。市も加わって、技術を都市のソリューションとして売っていかないと競争できない。たとえば、富山市のLRTの仕組み（車両とメンテナハウに加えて、街中に電車があるメリットの訴求）や、仙台市のごみ処理システム（ごみ処理とごみ分別PR）など。</p>	<p>(1)住環境や子育て環境にも恵まれた個性ある都市圏の暮らしの質の向上（医療・福祉サービスの充実）の骨子に、富山型デイサービスなど地域福祉の推進について記載。</p>
<p>・住みやすさの評価が比較的低い「労働環境・雇用機会」の水準を高める政策が必要である。また、高齢者の増加を考えれば、「福祉・医療」に関してもトピックを目指すべき。</p>		



広域連携プロジェクト	2 農山漁村活性化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>能登半島はどう捉えられているのか、不明確である。記載すべき。</li> <li>能登半島の過疎地域にどう対処していくのか、せめて課題整理だけでもしてほしい。</li> <li>能登半島の活性化について、記載が必要。石川県内で金沢への一極集中が起きている。</li> </ul>	<p>(2)都市と農山漁村の地域間交流と連携の促進による地域経済の活性化（都市と農山漁村との交流拡大）の骨子に、以下の文章を記載。</p> <p>「〇能登半島振興の基本的方向である「活気と潤いのある個性的な地域」を実現するため、ヒト・モノ・情報の交流、人づくりと文化の創造、自然と人との共生、安心と楽しさの生活の実感、知恵を活かしたものづくりに関する施策を重点的に推進する。」</p>
	3 防災プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>北陸圏域で災害対応を連携して行ってきたという印象がない。圏域防災計画を一緒に作るくらいでないと、連携していけないのではないかな。</li> </ul> <p>【第1回懇談会指摘意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本海・太平洋2面活用型国土の機能拡充・補完関係に大きな期待が寄せられている。福井県、石川県、富山県に新潟県を加えた北陸地方4県を核とした環日本海防災拠点構想を立ち上げ、日本全体の防災戦略への貢献と、地域の安全安心な国土の実現を目指すことを目標にかかげるべき</li> <li>南海トラフ大地震等で太平洋側が被災したときに、北陸はバックアップエリアになるだろう。ただし、今、富山県には108万人住んでいて、108万人だから水は足りているが、あと20万人、30万人と受け入れたとき、水や米は足りるのか、試算が必要ではないか。</li> </ul>	<p>(2)地域コミュニティを活かした地域防災体制の強化の骨子に、以下の文章を記載。</p> <p>「〇北陸地域の防災関係機関が連携し、連絡会議や防災訓練等を通じて、北陸地域の防災力、即応力強化を図る。」</p>
	6 日本海中枢拠点形成プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくりがシーズ中心の発想になっている。しかし、ニーズベースで産業政策を考えることが重要。美容、健康、若返り、安心・安全、ペット、癒し、冠婚葬祭等、個人がお金を使うポイントをターゲットにした商品開発等、ニーズベースのほう民間も乗りやすいのではないかな。</li> <li>対流には、さまざまなレベルがある。コミュニティレベル、圏域内、隣県、全国、世界と、輪が広がっていくイメージが伝わるとよい。</li> </ul>	<p>(1)日本海沿岸地域有数のものづくり集積を活かした産業の国際競争力の強化（北陸圏の産業ニーズを踏まえた人材育成・人材確保及び産学官や異分野連携等による中小企業の活性化）の骨子に、中小企業地域資源活用プログラム等による異分野が連携した新商品開発・販路開拓の支援について記載。</p> <p>冒頭に、以下の文章を記載。</p> <p>「北陸圏の有する三大都市圏や環日本海諸国を始めとする東アジアに対する地理的な優位性を活かして、日本海側の産業・物流の中枢拠点機能を強化するため、地域レベルでは日本海沿岸地域有数のものづくり集積を活かした産業の国際競争力の強化、三大都市圏や環日本海諸国レベルでは近接性を活かし、東アジア等の諸外国に展開する国際物流機能の強化を推進する。」</p>
	7 食の北陸ブランド展開プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>CSRの一環で農林業を支援しているが、より積極的に農業・林業への製造業の協力ができればと考えている。便利になれば過疎化しないという考え方もあるが、実際には産業の生産性が低いことが過疎化の端的な理由だろう。農林業に製造業の手法を活用する等の生産性を上げる取組を行政中心に進めること必要だ。農山漁村の活性化も進むのではないかな。</li> <li>農業についてはかなり具体策が記載されているが、林業・水産業についても、将来への糸口になることを書き込んでほしい。基本的には企業化の方向だろう。</li> </ul>	<p>(1)食料供給力の強化（「北陸ブランド」の構築）の骨子に、6次産業化による農林漁業と他産業のバリューチェーン形成について記載。</p> <p>(1)食料供給力の強化（「北陸ブランド」の構築）の骨子に、以下の文章を記載。</p> <p>「〇六次産業化の具体的な取組として、例えば水産業については、養殖魚の加工・販売事業、水産物・未利用資源を活用した新商品の開発及び販売拡大事業等を推進」</p>
	9 観光交流圏形成プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>農山漁村の経済的な効率性以外の価値が注目されている。修学旅行生を受け入れるような取組が九州や四国で進んでいるが、北陸ではそういう取組が遅れているように思われる。能登や中山間地で、力を入れていくべきである。</li> </ul>	<p>(1)地域の連携強化による満足度の高い魅力ある観光地域づくり（旅行者が何度も訪れたい新たな観光形態の創出）の骨子に、エコツーリズム等を通じた人材育成について記載。</p>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>今回の北陸広域地方計画は、わくわくする感じがする。人を引っ張るにはカリスマ性が必要。</li> <li>地図がバラバラで、北陸が全体的にどうなっているのかがわかりづらい。総括図が必要ではないか。表現系を見直しては。</li> <li>第1回有識者懇談会で委員が述べた意見をもう一度噛み砕いて反映してほしい。</li> <li>中央はどういうことを地方にやらせてくれるのか。すべて東京ではダメ。東京と地方との役割分担が必要。</li> <li>文理融合のもの見方が、地方創生に必要なではないか。</li> </ul>	<p>—</p> <p>プロジェクト全体を示す将来の姿を一枚で表現することを検討。</p> <p>第1回懇談会指摘意見を再度確認した上で計画(案)を策定する。</p> <p>—</p> <p>—</p>

第2回有識者懇談会での主な意見と対応(欠席者)

項目等	指摘事項	対応の方向(案)	
将来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>「新・北陸」について大変シンプルでわかりやすく、また印象に残るコピーだと思います。広報する際に効果的に使用すると良いと考えます。</li> </ul>	—	
目標① 個性ある北陸圏の創生	暮らし	<ul style="list-style-type: none"> <li>富山県はこども110番の取り組みがあり、何か困ったことがあれば掲示してある家や店舗に駆け込むことができる。それを子供だけでなくお年寄りや障害者(児)の110番があれば、お年寄りや障害者の外出の頻度が多くなるし、コミュニティが広がっていくと思う。</li> </ul>	<p>(1)親との近居や地域コミュニティを維持するとともに、子育て支援や女性就業、生活サービス支援等だれもが暮らしやすい生活環境の充実（若者から高齢者みんなが住みやすく、2代、3代と安心して住み続けられる、地域コミュニティの維持・充実、定住化環境整備）に、高齢者や障がい者への対応について記載。</p>
広域連携プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>北陸3県の域内連携はまだ弱い。域内連携、すなわち北陸3県の県境を超えた連携の必要性、そのための地域間相互理解の深化、それに伴う各種プロジェクトの波状的展開といったところが、国内的、国外的にも注目度を増すポイントだと思う。かつての「越の国」の一体感、共存、共栄の精神のようなもの、その啓発活動も必要なのではないか。</li> </ul>	—	

## 「第2回北陸圏広域地方計画有識者懇談会」の開催報告

新たな「北陸圏広域地方計画(案)」の策定に向け、計画に反映すべき施策等について、各分野における有識者の方々よりご意見をいただく。

### 1. 日時

平成27年8月7日(金) 13:30~16:00

### 2. 場所

金沢市

### 3. 有識者

石森 則子	(株)ウララコミュニケーションズ 取締役総務局長
伊藤 数子	(株)パステルラボ 代表取締役社長
小田 禎彦	(株)加賀屋 相談役
川田 文人	(一財)北陸経済研究所 理事長
京田 憲明	富山市 都市整備部長
新 弘之	(株)のろし 代表取締役
惣万佳代子	NPO法人このゆびと〜まれ 理事長
高 博子	NOTO 高農園
高山 純一	金沢大学 理工研究域環境デザイン系長 教授
田村 圭子	新潟大学 危機管理本部危機管理室 教授
長尾 治明	富山国際大学 現代社会学部現代社会学科 教授
南保 勝	福井県立大学 地域経済研究所 教授
西村 昭宏	(株)西村プレシジョン 社長
西村 可明	(公財)環日本海経済研究所 代表理事兼所長
堀田 裕弘	富山大学 工学部長
宮口 侗迪	早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授
柳井 雅也	東北学院大学 教養学部地域構想学科 教授
◎山崎 光悦	金沢大学 学長
山下 修二	(株)小松製作所 常務執行役員 栗津工場長
※ ◎:座長	

### 4. 内容(別紙1、議事概要のとおり)

○新たな「北陸圏広域地方計画(案)」策定に向けて

- ・広域地方計画の策定作業状況について
- ・有識者意見交換

## 「第2回北陸圏広域地方計画有識者懇談会」議事要旨

平成27年8月7日(金) 13:30~16:00

於 金沢市文化ホール 3階大会議室

## 1. 開会あいさつ

北陸地方整備局 藤山 秀章 局長

## 2. 新たな「北陸圏広域地方計画」に係る説明

- ① 新たな「北陸圏広域地方計画」策定スケジュール
- ② 「北陸圏・中部圏の国土形成を考える会」の開催報告
- ③ 新たな「北陸圏広域地方計画」 中間整理(案)
- ④ 新たな「北陸圏広域地方計画」 広域連携プロジェクト(素案)

## 3. 意見交換

## 【主な発言内容】

項目等	意見
現状	資料3に「地域コミュニティの高さ」とあるが、地域コミュニティに高い低いはない。妥当な言葉を選ぶべき。
	文化的な豊かさについて、記載が不足している。
	さまざまな産業があり、農村があつたり、職人が手仕事をやっている工場もあつたりすることは、子どもたちに多様な生き方に触れさせることができるということでもある。その点も強調されるとよいのではないか。
	方向性が見えてきた印象がある。全国レベルの水準の居住環境(教育・生活)があることをもっと強調してもよいのではないか。
	<u>北陸圏の経済力と暮らしの場としての価値は、日本で突出している。両方をあわせ持っているという特長は、もっと強調して表現してもよいのではないか。</u>
課題	北陸圏の弱みについて、本文の文章の中でもう少し触れたほうがよいのではないか。課題と問題は、異なる。たとえば、 <u>北陸は幸福度が1番だと言っているが、住みたいまち1番にはなっていない。</u> 選択肢が少ないという指摘もあつたが、多様性が少ない、閉鎖的ということもあるのではないか。そうした問題を整理しておくことが必要。
	エネルギー効率もそれほど高くはない。改善が必要。
	農家が自分の小さな畑で野菜を作りながら年をとっていくのは、幸せなことである。北陸では、高齢者の息子・娘が1時間圏内に住んでいるケースが多く、先ほど指摘された高齢者の散居への懸念は、あまり心配する必要がないと思われる。

将来像		<p>世界の中での北陸の役割を示す計画としてもよいのではないか。富山市では、コンパクトシティの取組が OECD 報告書に掲載されたことで、各所から声がかかるようになった。最初は力不足でも、背伸びをすると視野は広がるものだ。</p>
		<p>将来像について、「どこよりも」という表現がされているが、何かと比較するのではなく、<u>北陸の住民が自信とプライドを持って輝く</u>ということを示す表現がよいのではないか。</p>
戦略目標① 個性ある北 陸圏の創生	暮らし	<p>三世帯同居率や共働き率の高さが記載されているが、世帯に子どもが複数いる三世帯同居が北陸では理想的だろう。世帯あたりの子どもの人数が一人の世帯と複数の世帯はいずれが多いのか、またそれらの世帯収入には差があるのか等、データを用いて、やはり北陸は子育てしやすい、住みやすいという裏付けができればよいのではないか。</p> <p>子育て支援については、もっと踏み込んでほしい。<u>三世帯同居は働きやすさだけではなく、孫育ての観点からも重要</u>であり、どのように最期を看取るかということとも関わる。</p>
	雇用環境・ 教育環境	<p>本社機能を東京から小松に移転したが、現実には単身赴任が多い。一般的に北陸は住みやすい地域であり、実際住んでみるとそのとおりだが、周りの人間はそうは思っていないのかもしれない。選択肢の少なさが一つの阻害要因ではないか。たとえば、大学が東京に比べれば少ない。北陸三県の中で、<u>個性のある選択肢づくり</u>をしてほしい。</p> <p>福井県でも、行政がさまざまな取組をしており、子育てと女性活用についてはいちばん進んでいる。しかし、若い人が流出してしまうのは、大学の選択肢が少ないことと、身近な賃金格差が原因だろう。</p> <p><u>高等教育機関への期待</u>も、もっと書いてよい。大学卒業後に留ませるために大学側がもっと努力せよということでもよい。金沢の魅力を感じて、県外から金沢に進学した若者が残るケースも多い。こうしたこともうまく書き込めるとよい。</p> <p>富山県内の大学で勉強した若者が、県外に就職してしまう。せっかく教えても、富山県内で生かしてもらえていない。就職支援に問題がある部分もあるが、生涯賃金が大きく違うなど、北陸の中での自分の未来を明るくイメージできないのではないかと思う。能力のある若者にとっての魅力は、働きがいもあるが、やはり賃金、安定収入の保障である。</p>
	人口誘致、 コンパクト+ ネットワーク	<p>たとえば砺波の散居村は全くコンパクトではないが、集住は地元の反発が強い。県民性や地域性を考えたまちづくりが必要だ。こうした地域の高齢化を支えるには公共交通が重要だが、富山市以外は決定的にインフラが弱い。老後が明るく見えないところでは、長く住もうとは思われない。</p> <p>「コンパクト+ネットワーク」を取り上げているが、全国計画に比べ具体性に欠ける。圏域の中でのモデルを示すなど具体化を。</p> <p>国土形成計画の全体を網羅しているように見えるが、インパクトが弱くなっている項目がある。環境、インフラ基盤のメンテナンス、ICT 技術の活用が弱いのでは。</p>



		ものづくりの都市として困っているのは、働く人材がいないということである。富山では菓業が盛んだが、全くの素人が製菓工場のラインに立つことは困難である。こうした労働者をどう育てるか。専門学校の可能性を、業界の方からも訴えられている。製造業を支えながら、都市と一緒に成長していくという視点が盛り込まれると、他の市町村の参考になるのではないかな。
		人材育成は非常に重要である。高等教育機関への要望も、ぜひ計画に書き込んでいただきたい。
		富山市の取組自体は、各自治体の目標になる良い事例だと思う。
	防災	前回地方計画では <u>克雪</u> が大きなテーマだったが、今回はあまり触れられていない。きちんと入れてほしい。北陸新幹線開業後、まだ雪の季節を迎えていない。北陸で冬に観光客が減るのは、車の運転に抵抗がある人が多いからではないかと思うが、この観光客減を克服することは重要な課題である。
	自然環境	国土形成計画の全体を網羅しているように見えるが、インパクトが弱くなっている項目がある。環境、インフラ基盤のメンテナンス、ICT技術の活用が弱いのでは。
戦略目標② 競争力ある 産業の育成	産業集積	ものづくり産業の人材育成を考えたとき、最先端技術の教育・研究も必要だと思うが、いまある技術を継承し、伸ばしていくことも重要であり、そういう人材育成も考えてほしい。  工業統計をみると、従業員一人当たり付加価値額は、それほど高くない。高付加価値化を目指す上で、現実を押さえて世界のニッチトップ企業を抱える北陸の強みを伸ばし、付加価値力を高めることが重要である。そのためには、中小企業のネットワーク化に触れてもよいのではないかな。中小企業単独でさまざまなソリューションを検討するのは難しい。複数企業が連携した動きは活発化しているが、それをさらに促進することが重要。
	産業誘致	産業誘致については、研究所の誘致がよく言われるが、研修施設の誘致も重要。交流人口が増える。コマツや YKK 等の事例もあるので、もう少し深掘りしてもよいのではないかな。
		小松に研修施設を持っている。たまたま土地があつて小松空港が近かったというのが立地の理由。年間三万人程度来ているが、それだけの人数を集めるためには、充実した二次交通が必要である。
	地域ブランド	農林業のリソースはあるので、いかに生産性を上げるかが重要。もう少し先を見越した目標を記載したり、将来性のある農業支援が必要ではないかな。
新しい将来像に向けた戦略について、グローバル化への対応として、ものづくり、観光、販路の拡大は重要である。既存の項目で触れるか、新たに項目を立てるべきではないかな。		
戦略目標③ 日本海国土 軸の強化と 太平洋側と	物流・旅客	本社機能の移転の促進や太平洋側との連携強化を掲げているが、販路の問題がある。名古屋・大阪と結ぶインフラの整備推進や環日本海諸国とのアクセス・連携もあわせて記載するべきではないかな。
		福井県は交通と物流が遅れている。福井側からの情報発信不足もある。

の連携強化	防災	産業の強靱化に向けて、エネルギーの供給網、資源・リサイクルのロジスティクスを考えるべきだ。
戦略目標④ 対流・交流人口の創出	地域資源	「ローカルに輝く」は十分伝わるが、「グローバルに羽ばたく」に関しては、例えば九州等国内の拠点と連携しながら外国との結びつきを示すなど、表現の工夫があるとよいのではないか。
		三次交通について、ほとんど触れられていない。三次交通で行くようなところに、北陸の良い所がある。三次交通まできちんと整備するところを強調してほしい。
		アジア人観光客をターゲットに雪を観光資源として活用するなど利雪を考えてはどうか。雪は永遠のテーマではあるが、プラス思考で考えることも大事。
		世界レベルの観光地になるために、何が足りないのか。マーケティングの視点を取り入れた施策が必要。インバウンドといっても、国籍は100カ国以上。どういったマーケットをどのように攻めるか、セグメント別の戦略を立てるといった方向性を出してもよいのではないか。
		台湾からの観光客は、桜・紅葉・立山の雪の壁に関心が高い。雪は、観光資源に活用できるのでは。
		観光業が大きな産業として将来性が見込まれる中、人材育成が重要である。観光学を教える教育機関があってもよい。理論的なバックグラウンドを持った人材、マネジメントができる人材を育てるとしても重要である。
		旅行者の視点で、何が足りないのか、追及することが必要。
		日本はものづくりの国である一方、「おもてなし」の国でもある。
	観光は、均衡ある日本の発展に寄与できる産業である。しかし、一般的な温泉・食事の観光ではなく、北陸の特性を活かした観光モデル(スタイル)を作らないと、地方の再生に資する産業にならない。 <u>日本の原風景、日本の本来の良さが残っているのが今の北陸の売りであり、これを活かしたユニークな観光地づくりが必要。</u>	
	観光	北陸新幹線の開業効果は、JRの予測の4倍近くになっている。首都圏からの人口大移動がはじまる。これまで、京都が観光のゴールデンルートといわれてきたが、北陸と長野で「プラチナルート」の形成を考えている。能登への入込については、東海北陸自動車道(能越道)の効果も非常に大きい。
	観光リソースをこれまでとは異なる視点でどう開発していくか。エコツーリズムなどの記載はあるが、もう少し深掘りが必要。	
	観光については、温泉・食事以外の新しいタイプのツーリズム開発を書き込んでほしい。	
広域連携プロジェクト	全体	<u>北陸新幹線の大阪延伸</u> についても、地域として声をはっきり上げるべきだと思う。
		<u>東海北陸自動車道4車線化、北陸新幹線の大阪延伸、能越自動車道(七尾～田鶴浜)開通</u> は真っ先に記載してほしい。

		<p>課題の整理の際に、過去 10 年間の傾向を踏まえて、今後の 10 年間の検討する等、数値等の客観的な根拠を示してほしい。たとえば、エネルギー分野では、3.11 後の再エネ導入率やエネルギー自給率、物流分野では、これまでの物流の増加傾向や今後の見通しを示す等。読み物としては良いが、国の計画としてはまだ薄い。</p> <p>何か行動を起こして変わるような提言を出してほしい。</p> <p>夢ばかりではなく、具体的に何をするのか、というところを記載してほしい。トピックの重複は、整理してほしい。</p>
1 接続型都市圏プロジェクト		<p>北陸は自然に恵まれていて、暮らしやすい地域。また、福井・石川・富山と 40 万程度の中核都市が連なる横長の地域。だが、連携する都市計画の話が出てこない。物理的な距離を縮めるために新幹線や高速道路はあるが、接続型都市圏として成り立つ都市計画的な取組がほしい。</p>
		<p>東アジアでは、これからメガシティが増え、ますます都市問題に悩むようになる。そうした都市に対し、北陸の都市と企業とがお手伝いをする。それは、自分たちを磨くことにもなり、インバウンドになって返ってくる。基礎自治体としてできることがある。</p>
		<p>工業製品やインフラ単体で見ると、中国等も同じレベルに来ていて価格も安い。市も加わって、技術を都市のソリューションとして売っていかないと競争できない。たとえば、富山市の LRT の仕組み(車両とメンテノウハウに加え、街中に電車があるメリットの訴求)や、仙台市のごみ処理システム(ごみ処理とごみ分別 PR)など。</p>
2 農山漁村活性化プロジェクト		<p>能登半島はどう捉えられているのか、不明確である。記載すべき。</p>
		<p>能登半島の過疎地域にどう対処していくのか、せめて課題整理だけでもしてほしい。能登半島の活性化について、記載が必要。石川県内で金沢への一極集中が起きている。</p>
3 防災プロジェクト		<p>北陸圏域で災害対応を連携して行ってきたという印象がない。圏域防災計画を一緒につくるくらいでないと、連携していけないのではないかな。</p>
		<p>復興計画の合わせ技を盛り込んでおくべきではないか。たとえば、普段はキャンプ場だが、発災時には災害復旧拠点になる等。今回の計画では、他地域の災害時の応援に行くことは記載されているが、北陸圏の被災時にどのような支援を求めたいのかが考えられていない。</p>
		<p>南海トラフ大地震等で太平洋側が被災したときに、北陸はバックアップエリアになるだろう。ただし、今、富山県には 108 万人住んでいて、108 万人だから水は足りているが、あと 20 万人、30 万人と受け入れたとき、水や米は足りるのか、試算が必要ではないか。</p>
6 日本海中枢拠点形成プロジェクト		<p><u>住みやすさの評価が比較的低い「労働環境・雇用機会」の水準を高める政策が必要</u>である。また、高齢者の増加を考えれば、「福祉・医療」に関してもトップを目指すべき。</p>



	ト	<p>ものづくりがシーズ中心の発想になっている。しかし、<u>ニーズベースで産業政策を考</u> <u>えることが重要</u>。美容、健康、若返り、安心・安全、ペット、癒し、冠婚葬祭等、個人が お金を使うポイントをターゲットにした商品開発等、ニーズベースのほうが民間も乗り やすいのではないか。</p>
		<p>対流には、さまざまなレベルがある。コミュニティレベル、圏域内、隣県、全国、世界 と、輪が広がっていくイメージが伝わるとよい。</p>
	7 食の北 陸ブランド展 開プロジェク ト	<p>CSRの一環で農林業を支援しているが、より積極的に農業・林業への製造業の協力が できればと考えている。便利になれば過疎化しないという考え方もあるが、実際には 産業の生産性が低いことが過疎化の端的な理由だろう。農林業に製造業の手法 を活用する等の生産性を上げる取組を行政中心に進めること必要だ。農山漁村の 活性化も進むのではないか。</p>
		<p>農山漁村の経済的な効率性以外の価値が注目されている。修学旅行生を受け入れ るような取組が九州や四国で進んでいるが、北陸ではそういう取組が遅れているよう に思われる。能登や中山間地で、力を入れていくべきである。</p>
		<p>農業についてはかなり具体策が記載されているが、<u>林業・水産業についても、将来 への糸口になることを書き込んでほしい</u>。基本的には企業化の方向だろう。</p>
その他		<p>今回の北陸広域地方計画は、わくわくする感じがする。人を引っ張るには カリスマ性が必要。</p>
		<p>地図がバラバラで、北陸が全体的にどうなっているのかがわかりづらい。 総括図が必要ではないか。表現系を見直しては。</p>
		<p>第1回有識者懇談会で委員が述べた意見をもう一度噛み砕いて反映してほしい。</p>
		<p>中央はどういうことを地方にやらせてくれるのか。すべて東京ではダメ。東京と地方 との役割分担が必要。</p>
		<p>文理融合のもの見方が、地方創生に必要なではないか。</p>

## 北陸圏広域地方計画有識者懇談会 委員名簿

石森 則子	(株) ウララコミュニケーションズ	取締役総務局長
伊藤 数子	(株) パステルラボ	代表取締役社長
小田 禎彦	(株) 加賀屋	相談役
川田 文人	(一財) 北陸経済研究所	理事長
京田 憲明	富山市	都市整備部長
新 弘之	(株) のろし	代表取締役
惣万佳代子	NPO 法人このゆびと〜まれ	理事長
高 博子	NOTO 高農園	
高山 純一	金沢大学理工研究域環境デザイン系長	教授
田村 圭子	新潟大学危機管理本部危機管理室	教授
長尾 治明	富山国際大学現代社会学部現代社会学科	教授
南保 勝	福井県立大学地域経済研究所	教授
西村 昭宏	(株) 西村プレシジョン	代表取締役社長
西村 可明	(公財) 環日本海経済研究所	代表理事兼所長
堀田 裕弘	富山大学	工学部長
宮口 侗迪	早稲田大学教育・総合科学学術院	教授
柳井 雅也	東北学院大学教養学部地域構想学科	教授
山崎 光悦	金沢大学	学長
山下 修二	(株) 小松製作所	常務執行役員 栗津工場長

(五十音順、敬称略)